

令和3年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属東雲中学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育課程	グローバル時代に生きる資質能力の育成	グローバル時代に必要な資質・能力の育成の観点から、通常学級、特別支援学級が関係づいた体験型の学習を柱にした教育課程を編成し、実施する。	STEP, SMART, 海外の姉妹校との国際交流等、特色ある教育活動を充実させる。	ポートフォリオをもとにした個人の振り返りおよび諸行事のアンケート結果を分析する。	コロナ禍における行事や教育活動のあり方について考えながら慎重に取り組んだが、生徒の活力を十分に引き出すために、さらなる検討が必要である。	B	緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響で日々の教育活動が制限される中、昨年度できなかったことを実践するように努めている。生徒の変容をエビデンスとして、資質能力育成の成果を一層客観的に示してほしい。	B	行事を実施することだけに拘泥するのではなく、生徒にどのような資質・能力を身に付けさせたいのかを常に意識して実践するとともに、生徒の変容を一層客観的に示すように努める。
教育研究等	東雲小・中学校での共同研究の推進	汎用的能力育成のために、各教科等の教育内容を精査しながら、学習指導法の開発を行う。	グローバル時代をきりひらく資質・能力を育むための学びを豊かにする授業の創造をテーマに教科等本来の魅力と学びのつながりを追求する。	研究成果の発信方法や研究会の開催方法を模索し、外部からのフィードバックの結果を分析する。	研究会をオンラインで開催してみて、参加者から一定の評価をいただいた。ただし、対面開催に置き換わるものではないため、研究会のあり方については引き続き検討する。	B	昨年度は中止せざるを得なかった研究会をオンラインで開催できたことはよかった。小・中の連携を充実させて、育てたい生徒像を明確にして取り組んでほしい。	B	対面形式で研究会を開催する実現性を高める方策を検討し、情報発信力を上げることができるよう努める。
	インクルーシブ教育の推進		プロジェクト研修や授業交流を通して、研究を推進する。	プロジェクト研修や授業交流における協議の内容等を分析する。	研修等は年度当初に計画した通りに行うことができたが、教員間の継続的な意見交流と研修内容の深化に向けてさらに努める必要がある。	C	計画通りに研修を実施できた点はよいが、通常学級の授業に特別支援教育の視点を取り入れたり、特別支援学級の授業に教科の専門性を反映させることができるような研修を進めてほしい。	B	研究主題を意識した研修や授業交流の機会をさらに増やし、教員個人の研究力を高めるよう努める。
社会連携・社会貢献活動等	地域連携・地域貢献の推進	通常学級と特別支援学級を有する特色や小中連携を行っている教育研究の拠点校として情報発信する。	本校の研究成果を外に向けて発信するとともに、他校への訪問や他校からの訪問受け入れを積極的に行う。	研究成果の発信の内容・方法、他校の研究会との連携や他校からの訪問視察・研究協力依頼へ対応などの実績をもとに検証する。	広島大学からの研究協力依頼(社会・体育・特別支援・英語等)に対応したり、他大学との共同研究に協力した。また、特別支援学級の教員が広島市内の学校と連携して交流を行った。	B	制限が多い中で実施可能なことを地道に行った。地域社会との連携も視野に入れて、教育活動を進めてほしい。	B	研究面での協力は勿論のこと、日々の教育実践、他校との交流の機会や地域社会との接点を探っていきたい。

注) 太枠内は、学校関係者評価委員会が入力する。

令和3年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属東雲中学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
学校経営・安全管理等	チーム東雲を意識した学校経営		校長をトップとして学校経営基本方針に基づいて教育活動を推進する。	教職員を対象としたアンケートを実施し、その結果を分析する。	教職員間の連携に一部課題(情報共有の徹底)があるが、管理職・部長・主任等の方針に基づいて、教育活動に取り組むことができた。	B	校長をトップとした学校運営がなされている。教職員が互いに課題を補いながら業務を遂行することができている。	B	魅力ある学校をつくっていくために、多様な価値観を受容できる教職員の関係を構築していきたい。
	危機管理と安全な学校環境の整備	学校教育の基盤となる健康、安全、安心の確保及び附属学校としての使命の遂行の観点から、教員配置の適正化と教育研修の改善を図るとともに業務内容の整理による業務改善を行う。	年3回の避難訓練を実施するとともに、安全衛生委員による定期的な点検を行う。	教職員・生徒による振り返りの内容を分析したり、安全点検の結果に基づいた環境整備や改善の達成状況を検証したりする。	年度当初の計画通りに3回の訓練を行うことができ、事前・事後学習を通じて、生徒の危機意識を高めることができた。	A	事前学習を含めて年間計画が適切に立てられており、生徒に危機管理の重要性を認識させることができた。	A	教員も生徒も危機管理意識が高まるような訓練を引き続き目指していきたい。
	勤務時間管理と業務内容の改善		勤務時間の時短を目指した効率的な勤務を呼びかける。	教職員を対象としたアンケートを実施し、その結果を分析する。	休暇を有効に使いながら、生活のバランスを維持している教員がいる一方で、在校時間が長時間に及ぶ教員もあり、業務の標準化および効率化をはかる必要がある。	C	働き方に個人差が出るのはやむを得ないが、生徒の成長をいかに効率的に保障するかという時間対効果の視点から、個人がどのように働きたいのかを意識させる方策を練ってほしい。	B	個人が働き方を意識するだけでなく、学校全体の業務改善につながるよう取り組みたい。
グローバル対応	国際交流の充実	グローバル時代に必要な資質能力を実際の国際交流を通して育成する。	グローバルマインドを意識した姉妹校(EMS・オデッセイ・ムンドヨ4中)との交流事業を推進する。	教職員・生徒による振り返りの内容を検証する。	作成した学校紹介動画や作品を姉妹校に送る取り組みはできたが、訪問以外の交流を安定的に維持するシステムを作ることが課題である。	C	国際交流の意義を相互訪問することに置きがらであるが、それが実現できない状況にあるとき、いかにして生徒に求める力を身に付けさせるかを検討する必要がある。	B	学校として姉妹校との良好な関係を維持すると同時に生徒が達成感をもつことができる活動を検討したい。
教育実習	教育実習の充実	今日的な教育課題と学校の特性に応じた教育実習の在り方について検討する。	教育実習生に今日的な教育課題を意識させながら学習指導案を作成させるなど、実践力を向上させる。	教育実習生および教員を対象としたアンケートを実施し、結果を分析する。	コロナ禍の教育実習は2年目となり、限られた条件のもとではあるが、教育実習の目標は概ね達成できた。	B	教育実習生のニーズに合わせた実習指導ができていると考える。働き方改革の視点からも指導のあり方を見直してみたい。	B	教員も実習生も使える時間が限られていることを意識しつつ、実習生の学びが深まるような指導を工夫したい。

注)  太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。